Wason
Mar. 1892
no. 310

女學雜誌

第三百十號

明治二十五年三月廿六日發兌

迎春行　たびの感

二宮尊德翁肖像

吾やどの花　若松しづ子

曩に譯したる小公子は男の子を主人としたり此度は女の子をあるじとしてホームの樂しき樣を寫さんとて掲げ初む

イーブを追懐す

秋色と千代女

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 310. MARCH 26TH. 1892.

Portrait of Ninomiya Sontoku.

EDITORIAL:—Topics of the Day.

In Pursuit of spring. (A Trip over Shikoku and Kiushyu). No. I.

LITERALLY:—Japanese Poem.

BIOGRAPHY:—Women in Haikai.

MISCELLANIES:—Eve.

CRITICAL NOTES.

THOUGHTS AND FANCIES:—Labour and Self-help.

WLLK NEWS.

第三百十號目次

●肖像　二宮尊德翁肖像並に題

●社說　時事雜感

●迎春　啓行（しのぶ）

●論說　愛に就きて（山月子）

●兒籃　わが宿の花（若松しづ子）

●文學

●史傳　故俳林の二女（秋色、千代女）

●雜錄　イーブを懷ふ

●批評

●隨感　獨立自活（方寸子）

●問答　誤解（山月子）

●女報

簡易出版　豫約募集廣告

小生が、明治女學校高等科女生に口授したる講義の中、左の二書に錄したるものは、些さか大方の是正を請ひ度ものあり、且つ地方に在る女生にして其筆記を見たしと要むるものもあれば、簡易出版法を用ひて之を印刷せんとす。同時に每號殘餘二百冊を得べきに付、下に記す條則にて豫約者に分配せんとす、

女學雜誌社　巖本善治

○講義錄

教育學

憾むらくは世上の君子と意見を異にするものもあるべし、左れど讀考窮査して多少の意見を開陳せり。

女學

年來此の一科の學を講ずるの必要を感じたる也、前年田口鼎軒君は痛たく之を駁し玉へりしが、遂に伺之を講述す。

右二書各々、一冊中本四十頁物にて、月一冊を配付し。凡そ一年にて完了す。

○代價定

「教育學」「女學」ともに一冊各五錢、郵稅二錢、一年分、郵稅合せて八十四錢（社に來受せらるゝ人は郵稅なし即ち六十錢）の定め、一方丈を約せらるゝも可なり。

○豫約期

四月一日に第一冊を配付す、每號二百冊に限る。豫約申込は、一年前金封入、三月二十日迄の事、兩書ともに豫約の人は前金半年分納あるとも無差支。但し定數に超る時は謝絕す。事務は、下六番町女學雜誌社にて辨ずる事。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

麥は米を生ぜず、
一粒の種五十倍百倍す、
一家一人の至誠者あらば、
六族五親之より化す、
至誠なき人至誠を起さず、
經濟を理するは黄金に非ず、
至誠よりする勤勉の心なり、
富は尊さむべし人を救ふ故に、
吾は富んとを欲す、
人を救はんとを欲す。

二宮尊德翁肖像

右福住正志氏所蔵の圖に據り彫刻したる者

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百十號
明治二十五年三月廿六日發兌

迎春行

○はしがき

方今の旅は思念を以てす、必らずしも身から經歴するヿを要とせず。寫眞、繪畫、のこす所なし、眼前東西の風光を觀るの便こまかに具はる。もし文字によりて之を讀まば、南北の人情一日にして明らかなり。人生長からず、身から脚夫、馬丁に比して、あへぎ〳〵奔走するは愚かならずや。

然れども百聞は一見に如かず。況んや、趣味は必らずしも利益を以て論ずべきにあらざるをや。われ太はだ旅行を好めり、而して身斷えず戸内にあり、年來外に出づるの至つて稀なるは、實に止むヿを得ざる所のもの多ければ也。

幼けなき時、吊籠にゆられて播磨路を行き、年少なる比ろ、名殘りの旅と稱して東海道を經たる記臆歴々として尚ほ新たなり。常に思へらく、人世は行旅の如しと、而して、此の感を鮮新ならしむるは、實際の旅に若くものなし。ホームを出でゝ、日々變化無常の人及び風光に接す、心さびしさに堪へず、涙を灑ぐヿ一再にあらず。余が、旅を好むと云ふは、此情あるによる。余は、其かみの北八彌二に倣ふの心を以て旅を見ず、きわめて嚴肅なる精神を以て之を重んず。旅は病又は死の如し、人世の大ひなる說敎なり。

ことし、思ひ立つヿあり、願わくは、四國及び九州の人情を觀察せんとす。之を吾黨の諸士に諮るに、皆な可しと謂ひ、さま〳〵の助力をもて余を勵ます。今回、意を決して行途に上るは之が爲めなり。

都に來りてより十有七年、櫻花を觀るヿ十有七回なれど、あとにて想ひ起し「遂に觀ざりし」と感ずるヿを常とす。年頭正月、家族の人々と約すらく、今年こそは、終日花に遊ばん、一生の友病はじめて輕ろし、一個の兒や、花の美なるヿを解す、同宿の女生、遠からず業を卒へて遠方に征んとす、されば、今年は一舟を借りて全家を乘せ、河の中流に漂よひて、向ふの島の花を眺めくらさらんと。

然るに、春未だ來らず、櫻花尚ほ蕾を破らざるに、われ約に違ひて、家を出んとす、遺憾の情にたえず。

われ在らずば、家の人外に遊ぶとなけん、今年大ひに花を看んとして、反りて之を禁むるに至れり、たゞ之を限りなきの憾みとす。

然れども、余が旅は到る所ろに春を迎ふるあり。九州中國今や將に開かんとするの櫻を以て待てり。歸路、嵐山、芳野の花尚ほ余が爲に忍ぶ所ろやあらん。左れば、余は墨堤の花を背にして、異境の花をみち〳〵而てにす。一失一得の感なきにあらず。余は到る所ろの花を記るしてわが家の人を慰さめずんばある可らず。

この旅日記、題して「迎春行」と云ふ。万感を雜記するは、素と、家の人に示さんとて作り、其中より摘採して、本紙上に掲載せしむるがゆえ也。

友人、校と社との事務を分任し、些さかも顧慮せしめず。前途到る處ろ、知人なきにあらず。此回の旅は、只とに前后無き所ろのもの也。たゞ發するに臨みて多少の準備あり、行李散亂たる裏に、卒々此一文を草す。啓行の思ひを記し置んがため也。

こゝに、紙上未見の友に對し、別意の情を寄す。

論說

愛に就きて

山月子

（一）愛と慾

紫の朱を奪ふを惡む、慾の愛を誣ゆるを悲む、嗚呼世人何ぞ愛を輕視するや、愛に清潔、不清潔の別無し、不清潔なる者は世より出づ、即ち慾なり、清潔なる者は神より出づ、即ち愛なり、ヨハネ子曰く「凡そ世に在るもの即ち肉躰の慾眼目の慾また勢より起る驕愛これらは皆父より出るに非ず世より出るものなり」と。愛は神より出づ、おほよそ愛するものは神に由て生れ且神を識るなり、愛なき者は神を識らず神は即ち愛なれば也」と、パウロ曰く「肉に從ふ者は肉の事を念ひ靈に從ふ者は靈の事を念ふ」と、既に光あらは暗からざるなり、既に暗からば光あらざるなり、愛ある者焉んぞ慾を行はん、慾ある者焉んぞ愛に步まん、天の人は天の心を持し、地の人は地の思を有す。

（二）愛の苦

パウロの書に曰く「愛は己の利を求めず……人の益を圖る、不義を喜ばず、眞理を喜ぶ」と、ソロモンの雅歌に曰く「アヽ愛よ、もろ〳〵の快樂の中にありてなんぢは如何に美はしく如何に悅ばしき者なる哉」と、世に愛ほど美はしく樂しき者あらんや、而して男女の愛を知る者、心に苦痛を感ずるは何ぞや、心に要てふとを思ひ、夫てふとを思ふは何ぞや、吾人之を考ふるに、夫婦の關係は、能く盡し、能く與へ、能く益するとを得ると思ふが故なり、而して其苦痛を覺ゆるは、時間、地位、境遇等の關係よりして、思ふ如くに盡すと能はず、意の如くに與ふると能はざるより生ず。

（三）　愛と人物修養

愛人の爲めに盡す何の爲めぞ、究め來れば、其人物をして立派ならしめんとするにあり、既に彼を立派ならしめんとせば、先づ我れ立派ならざるべからず、彼をして深く神を愛し、博く人を愛するの偉人たらしめんとせば、先づ我れ神に深愛に人に博愛なる偉人とならざるべからず、而して我れ微力、何事をも爲すに堪へず、是に於て乎彼の爲め我の爲め、赤心よりの祈り生ず、心は押しやらるゝ如く基督に向ふ、乃ち其信と望と愛は、益々確く益々篤く益々大なり、小より大、偏より博、我等の愛より基督の愛に至る、パウロピリピ人に贈れる書に曰く「我れキリストイエスの心をもて爾曹衆を戀慕ふことに就ては其證をなす者は神なり」と、人道般の境に到る、其人物の美、如何許りぞ、吾人は斯の如き男女を見んことを欲す。

（四）　愛に失望無し

基督教徒の夫妻てふ思は、盡さんとする心より、犧牲献身の精神より起る、而して其夫妻の願を成就すると能はざる時は如何、之を不信者の戀愛に質すに、其愛人もし他の人と夫妻となるが如きとありては、世をも人をも墓なみて、盛りの花を一夜の嵐に散らすが如きの男女なきに非ず、「余實に爾を愛す、然れども節義を愛すると爾を愛するに過ぎずんば、余は此の如くに善く爾を愛すること能はざりしならん」との言葉を以て之を推すに、神を愛する基督教徒の愛は、世の青年男女の戀愛より幾々層深きやを知るべからず、然らば其苦痛は更に幾々層深き筈なり、而も猶失望無しといふは何の故ぞ、蓋し信者の愛は、基督の心を以て愛するとなり、基督曰く「我よりも父母を愛む者は我に協はざる者なり我よりも子女を愛む者は我に協はざるものなり」と、吾等が愛は基督より來る、基督を深く愛すればこそ、人をも深く愛するとを得るなれ、即ち基督に在る者は、如何に苦しくとも失望無き筈なり、基督嘗てゲツマセ子に祈りて曰く「父よもし聖旨に背はずば此杯を我より離ち給へ然ども我意に非ずたゞ聖旨のまゝに成したまへ」と、神を信愛し、凡てを之に一任し給ふと、吾等信者の學ぶべき所ならずや、夫妻となるも、ならざるも、皆吾等を愛する神の聖旨なりとせば、吾等は何れとも、之を感謝すべきなり。

（五）　圓滿の愛

「我いよ〳〵爾曹を愛すれば愈爾曹に愛せられず然ど欣びて爾曹の靈魂の爲に財を費し身を盡すべし」といひけんパウロの心、如何に美はしく、如何に大なる哉、「父よ彼等を赦し給へ其爲ところを知らざるが故なり」と十字架上に己を殺す者の爲めに祈り給ひし基督の心に至りては、吾等何の言を以て之を讃美すべきやを知らざるなり、嗚呼吾等之を思はゞ、能く圓滿の愛を悟るとを得ん。

兒籃

わが宿の花

第一回　樂しみな苦勞

若松しづ子

ルーセや、赤ん坊が泣てるが、おまへ下りて來て、一ッ切り抱いてお呉れでないか？

と階子段の下から聲がかゝり升た。ルーセと呼れた小女は、かふ聞くと共に、太い嘆息をつき、今まで一心不亂に讀んで居た書物をヂレッタイといふ意氣込で机の上へ投げ出し、そして、殘り惜さうに書物や雜誌類を眺めながら、

本當にいつでも泣いて居る樣だよ！

と獨口つゝ、素速い耳には喇叭の音ほど耳障りになつた彼の泣聲を鎭めに行足は中〳〵進みませんかつた。母は

おまへ折角、書物を讀て居る邪魔をして、氣の毒だけれど、赤ん坊が彌靜かにして居なくなつて來たのに、私はこの通りパン拵へで手が閉つてゐるもんだからネ。一寸の間丈で好よ、わたしが直つき、おしまひにして、とるから。

ルーセは幼子を抱き擧げ升て、不滿を鳴した其泣顏が嬉しげなホヽ笑みに處を讓る時分には、動もすれど心に起つて來た不滿の念を打平らげ、一度ならず、赤子の丸い桃色の頬をキス致し升た。そして、

おまへは困り者に違ひないけれど、矢ッ張り、可愛いがらずに居られないよ。子供といふものは、面倒な樂しみだつて、人がいふけれど、本當に尤もだよ。

といふと母が二人の我子を愛〳〵しい眼つきし、眺めつゝ、私は又子供は樂しみな苦勞と思ふよ、何れ世の中に居る中は、何かしら苦勞があるに諦つてるが、其中でマア子供の苦勞が一番增かと思ふよ。

マア、さうかも知れませんネ。併した外にいくらも苦勞が有り升からネ。

母はパン拵らへよりも、今の娘の言葉に氣をとられ、

おまへ其苦勞といへば、一寸どんな事をいふの？

ダッテ！、一々數へて見れば、大變じや有りませんか、第一、おとうさまもあなたも、この通り、御苦勞なさらなきやならないし。

それから？

それに、わたしたちはこの通り貧乏だし、子供たちは八釜敷し、わたしは學校へ行ないし、赤ん坊はあとから／＼出來るし、そして、いつまでも／＼、この通りかと思へばがつがりしてしまいますは。

母は嘆息の聲を漏らして、さもだるさうな手つきして、粉名を捏て居ました。そして、

ほんとうに、おまへのいふ通りだ。尤もだ、おまへたちにそんな煩わしい苦勞はなる丈、させぬ樣にかばつて上度と思ふのだが、それも出來ないしす、其中、子供でも大くなつたら…………さうしたら…………が、それもどふだか知れないよ。未來のことはわたしにもなんとも云へないから。

ルーセは、氣のなさゝうに、

でも、今の子供が大きくなれば、又あとから／＼お代りが來るんですもの、

それもさうだが、さういふ事も其中になくなるはす、さうすれば、おまへも今よりはモット勉强する暇の出來る樣にしてリベカは家に居て、わたしの手助けをする樣にしませう。そんなことが出來ませうか！、

とルーセはいひ放つたあとは鬱憂か口を緘してか、無言で、窗邊へ寄つて、外表を眺めて居り升た。母は同じく、沈默で仕事を果し、胸まで掛けた長前垂を取除け、窗の側へ來て、

サア、とらう。

といつて、子供を取り掛け升た。然るに、子供は抱手が氣に入つたさうで、ニコ／＼しながら、そり反へて、ルーセの頸へ、小さい肱で倚シッカリ抱つき升た。

マア其子のおまへが好だと、リベカの方は一向お氣に入らなくつて、ほんとうに困るす、それはそうと、あの子もハテもどうしたのだらう、みんなモウ歸つて來る時分だが。

エー、モウ五時半ですもの、みんなとふに、歸つて來て居て好のです。人が勉强しようと思ふと、いつでもかうなんだもの。

母は優しひ聲で、

サア、いつて勉强おしよ。

といつて、赤子を抱きとり升た。

ダッテ、矢ッ張り出來はしませんわ、モウ夕飯のお茶を沸す時分ですもの、姉さんがお茶をおわかしなさる番ですけ

ど、どこをまごついて歩いて入つしやるんだか………

いふとの不穩當なには似もやらず、ルーセはかひ〴〵敷鐵瓶へ水をさしたり火を起したり致しました。

すると、母が

おまへおよしよ、リベカが自分の仕事をおまへにさせて於いて、濟むのとおもふ樣になると、仕方がないから。

それでもいまにおとうさまが歸つて入つして、御飯か上り度つておつしやるでせうし、それに、アレ今向ふから子供たちが歸つて來升よ。キット又お腹をすかして居るでせう

………

そこであちらこちらとあくせく動き出し、パンを切つたり、牛乳を取分たり、皿や庖丁を並べなどして、夕飯の用意をするかひ〴〵敷手際を見て、母は心の中に、ほんに此子は姉に幾倍增だか。

さういふ内に、あの子はどふしたのだらう、困つてしまふよ、サア、坊は少しの内搖籃の上にえんして居て、かあさんに姉さんの手傳ひをさせないちやいけないよ。

そこで幼兒を小ぢんまりと布團の眞中へ寄りかけ、手遊びにとてブリキの皿と錫の匕を當がひ、急いでルーセの手傳に行升た。幼兒はそこで氣に入りの皿と匕とで一種異樣な音をさせ始め升た。此遊戯が御意に入つて、益々大勢で叩いて居る眞最中に子供たちは學校から歸つて來て、家へ飛で這入つて來升た。ヂャンといふのは持つて來た書物を投げ出しながら、書物に對して、大聲に、

それ！そつちへ行け、こんな困らせものは投げ出してしもやらないじや仕樣がない、御膳は出來てるかへ？なんだか腹がへつて〳〵熊が三疋も腹ん中に居る樣だ。

母はニコ〳〵して、肩を叩き、

一疋でも澤山じやないか、だが姉さんやハナは、どうしたへ、姉さんなんか、どつか、そこいら這いづつて居るでせう。あの分じや、夜中にでもなつたら、家へ歸つて來るでせうよ。ハナは止められてるんです。お手本へ墨をつけて、おまけに怒つたんです。だから、其罰に聖書を一章暗誦しろつて仰せつかつたんですもの。

アヽ、リベカ、おまへはまた、どこへ行つて來たのだへ？

と母がゆる〱這入つて來た總領娘に

おつかさん、なぜ、學校から直ぐと歸つて來たんですよ。だつて、おまへお夕飯の仕度に間に合ふ樣に歸つて來ないじやいけないは。子居ないもんだから、ルーセにおまへの代りをさせたじやないか。

でも一生懸命で早く來たんですよ、スーザンさんと一處に、男の子たちの樣に、あの坂を駈上るとなんか出來ません者。そうして、ルーセさんは、何もおせつかいに、御繕拵へなんかしあいだつて、好もの、私が歸つて來るのが、知てるのにさ。

スルト弟のヂヤンが

ヤア、おせつかいだつて 姉さん、おせつかいツて、どんな字書くの?。敎へて頂戴な。

母はつく〱と姉娘のゆる〱した步振りを妹 娘の性急して、多少いら立つて居るのに比較して見て、

本に、おまへたち二人を一處に混ぜ合せたらば好だらうと思ふよ。兩方が好い加減になるだらうよ。 それはさうと、おとうさまの處へ急いで行つて、御膳が宜しう御座い升つて、お呼申ておいで。それから、おまへたちはみんなこつちへ來て、顏をお洗ひよ。

と、後とは云ず、今にも膳部の攻擊にかゝらうとする息子たちへの注意でした。先漸く四方浪風が治つて、一ト安心といふ時に、搖籃の上なる幼兒が前のブリキの皿を一撲と、眼指した匕がそれて、パシヤント美事な額へ當り升た。皿と匕は下へ落ると共に、恐怖と痛苦に得堪ず、キヤア〱わめき始め升た。アナヤト一同側へ走り寄つて、何事と尋ね、我先と泣子を抱いて賺さうとし升が、必竟抱き取つたのはルーセでした、痛みのある頭を冷したも、ルーセの手で、前とはうつて變つた解る樣な優しい聲で終に泣聲を慰めすかしたのも矢張りルーセの聲でした。いつもながら人に後れて、恐聲立てる外には間に合はぬ姉娘が、

マア、なんと大きな瘤を額へ拵らへたじやないか!、

ルーセは子供を痛つて、己のとては、一切打忘れ、

さあ、おつかさんは、御膳を上つて入つしやいまし、私が其中守をして居り升すから。ナニ直つき癒つて仕まい升よ。

これから外へ連れて行つて遣りませう。

そこで抱いた幼兒にキスをしながら外へ連れ出し升たが、間

もなく、幼兒は眼はまだ涙を一杯に湛へながら、はやニコ〳〵と笑顔をつくつて居り升た。ルーセは食卓に向つた人たちに其顔を見せやうとして、

ツラ御覽なさい、どつかに虹が出て居ませうよ、雨が降つてる中にモウ日が光つて來ましたもの。

父は家族の者にさへ稀に見せた笑を傾けて、

其虹はおまへだらうよ。

といひ升たが、呵責られても容易に赤面しないルーセが此時早くそむけた顏をまつ赤にして、恥らいました心の中に、

おつかさんがお呼なすつた時、私の心の中につぶやいたとお聞なさらないのだもの。私が我儘で、すねたとも何も御承知ないから必竟、あんなにいつてお賞めなさるのだが、實の處を御承知なら、虹どころじやない、それこそ雷入りの雨雲だと仰つしやることだらう。

と自唱雨雲はパラ〳〵と大粒の雨を泄らして、漸く心曇を晴らし、幼兒を母に渡して、膳に着き升た。それは一同が膳を離れてからでしたが、見ればパンが自分の爲にとて一切も殘して有ませんかつた。それでまた心の中に、

誰かパンの一切位私に切つて置いて呉たつて好のに……だが、今始まつたこつちやない。私が養べやうがたべまへが構つて呉れる人なんか一人も有りはしない。

と思つて居ると、弟のアーサといふが手に大きなパンを一ツ握つて駈て來て、

サア姉さん、これは姉さんのですよ僕一人で行つて買つて來て上たの。それから學校から歸りに木苺を摘んで來て上升たよ。

おまへ、なぜ、おつかさんに上げなかつたの？

あげたとも、半分はおつかさんに上たの。

なぜ、みんな上なかつたの？

と其譯は知りながら弟のいふのが聞たさに態と尋ね升た。弟はたゞ姉の顏を見て、ニコ〳〵して居升た。併し其笑顏計りで心に充分滿足し升て、又も我と我心に恥しく、良心に咎められて、アゝ、モット好心がけになり度、淑德ある婦人になり度と思ひ升た。あとは沈默で食事を果てゝ、下の子供たちを寐かす母の手傳をし升た。さうかふして居る最中に、ハーリが顏を眞赤にして、息を切つて、セイ〳〵云ひながら驅込んで來升て、

オヤ、みんな御膳たべつちまつたの、嫌だヨ、わたし一人たべなくつちやならないのヨ。誰か待つて居てくだすつたつて、好いのに。牛乳はどこ？アレこゝだよ。おつかさんはどこに入つしやるの？おつかさん〳〵、わたしに又靴を一足買つて下さいな。ダッテ、わたしの片ッ方の靴の側へ穴が開いて、おまけにかゝとが切つちまつたもんだから砂利なんかが這入つて、死にさうになつちまうんですもの。

姉娘のリベカが、叱り氣味に、

オヤ、おまへ、あれは、一月位しか穿やしないじやないか？

ハテは、中〳〵屈せず、

デ、それがどうしたの？

どふでもないけど、あたしたちが、みんな新しい靴を毎月、一足づゝ穿ば其お金はどこから出るだらうと思つたの。

ハテは笑つて、牛乳を茶椀へづん〳〵注ながら

靴を一足づゝみんなが穿んだなんて、誰がいつたの？姉さんみた樣に蝸牛の這樣に歩いてたら、そりや靴だつてモウ少し長くもつだらうけど、あたしなんか、あんなに這づゝて歩く位なら死んぢまふ方が餘ッぽど増しだわ。ホイーラ先生のけふは熬て、たと！、構ふもんか、御膳たべちまつたら、モウ心地もすつかり好くなつちまつたわ。わたしを止めて置くにヤア、矢張り自分だつて側へ附いて居なくつちやならないから、好い氣味だつたわ。サアこれから、メレさんとこへ行つて來よう。

帽子を抓んで、早足に出て行ふとする處を、母は引止めて、

おまへいつかの靴足袋、ついでしまつたのかへ？

いゝへ、まだけれど、あしたついぢまい升よ。今メレさんとこへ行んですもの。

兄さんは、お前のお世話じや迷惑だらうヨ。

ハテは朋友の處へ行ふか、兄の靴足袋を繕はふかと暫時躊躇し升たが軈て、

あしたは土曜日ですから、兄さんの着物をみんな見上升よ。

といつて、母の生承諾を幸ひに、驅出して行つてしまい升た。

母はルーセに向ひ、

おまへも行つて來てはどうだへ？

わたしは、これから少し勉强しよふと思つて居升たの。

デモ少し外へ出て氣を脱いてからにおしよ。今日は少し

も休む暇がなかつたから。

わたしは勉强すると休まる樣ですもの。

それでも、わたしを安心させると思つて行つて來てお呉れ。

ルーセは帽子をとつて、手に持つたまゝ暫時、佇んで考へて居升た。それから、靜かに家を離れて、近邊の林の方へ足を向け升たが、間もなく、林の影で、氣つかわしげに見送る母の眼も及ばなくあり升た。母の心の中に、矢張りハテと一處には行なかつたと思ひ升た。常には中〳〵氣落せぬ母が今夜はさま〴〵の思ひ煩ひに心に錘を下げられた樣で、抱だかれて寐りかゝりの幼兒を憂わしげに眺め遣り升た。幼兒は眼を見開き、母の浮かぬ顏を見てとり、べそかいた其あはれな顏は見るも痛ま敷樣でした。そこで、ホヽと打笑んで我子を賺し、靜に歌ひ始めました。

いともたのしきあまつみ國、君と住むたみの、
さちはたえじ　とこよにてる日の、そのかゝやき、
つきぬ樂しみぞ、あやみをはらふ、
みくにはのどけき、ときはのはる、いろかへぬ花の、
いとうるはし、のぞめばこのよに、いともちかし
死のかわへだてど、いまやわたらん、

幼兒は靜まり升て、直きに眠り升た。そして母の重き心も靜かに安息いたしました、古き其讃美歌は心を慰めて憂を拂ふ財料となり升て。

文學

元祿時代の韻文 並作者自評（下）　無名氏

和漢賞花　五言律　野盤子

花はよし花ながら
見る人おなじからず▲
ぼたんには蝶ねむり
さくらには鳥あそぶ▲
たのしさを皷にさき
さびしさを鐘にちる▲
唐にいざ芳野あらば
詩をつくり歌よまむ▲

狂云花の詩は和歌の躰に效ひて全く風情を成せりと云ふべし

されば第一第二の句は世に人の花を賞する唐土の人は牡丹を云ひ我朝の人は櫻を云ひて其趣は異なれども其意は同じきとなり次に後對の皷に咲くとは唐の玄宗の遊樂にして時ならねども花の咲たるよし羯皷樓前の詩の意を借り用ひ鐘に散るは歌の詞なれば爰にも和漢の情を對し殊に哀樂の二相をいへる賈島が鳥僧の一對といふとも花實を盡さゞるところあらむか

逍遥遊　五言　　蓮二房

よしあしの葉のうちに▲
寐れば我さむればとり▲
鳥さしはさもあれや
かく瘦て風味なし

狂云寐れば我爲鳥さむれば鳥爲我といへる荘子が齊物の意なから句法に錯綜の自在を見るべし或は鳥さしとは世間の人を指て佛家には人の貶剣に任せ儒門には桓雖如何の意なれば我は世情の味ひ盡きて風雅の褒貶に心なしと之

田家戀　眞名二字韻　　蓮二房

さをとめの名のいかにつゆけき　露濃
花もかつ見のよしやよの中　俗中

淺香もわらぬ沼のかげさへ　影副
鏡の山のはこにはづかし　慙通

狂云此體は万葉の韵に似たれど多くは訓にして音は稀ならむ然れば此格の要するところは和漢に二字の熟語を尋ねて私の韵礎を作るべからず狂と不狂とはこの堺之

老圃詞　眞名二字韵　　岸　昨嚢

我をかゝしと人の見るかも　可聞
露にしぐれに笠のあけくれ　旭曛
腰には弓の老ひにけらしな　來品
おさまれる世に山田もるてふ　而云

柳後園晝寐　　馬才人

柳の雨の軒にはれては▲
鳥にこゝもおとろかぬやら▲
花のさく日も花のちる日も
この盃の夢はさめずや▲

詠梅　　高左把

梅よ。先ひらけ。みんなみのえだ▲
雪の。降とても。春めきながら▲

闇は。あやなしと。たれかいふらむ
窗に。香をおくる。あかつきのはな▲

狂云此詩は唐の李太白が三五七言に效ひながら和と漢とは音訓の差別より句の配りの違目を見るべしとなむ

晩望　　岡未搭

山ほとゝぎす松に寐さめり▲
孤村の月の水よりも涼し▲
酒にたばこと下戸ならぬ身は
青葉の雨のはれてそのゝち▲

去者日疎　　馬才人

よのなかの聖靈を見れば
ひとり來てひとりかへる▲
麻柯の杖にすがり
蓮の葉の笠をいたゞく▲
刺鯖の孫はもてども
抹香の佛をきらふ▲
今ぞしる鴨河の
はては白河となりぬ▲

鑑亭聯　　東花坊

山は遠けれど花と見て雲しづかに▲
水は近けれど月を得て風すゞし▲
郭公の夜
是は鑑亭のあそびなり▲
時雨の日
主も其水に似て寛にならば
客も其山に似て悠然たらむ
是は鑑亭の交りなり▲

鳥　四季のうち　　桃花仙

夏あつく冬さむし
鳥に似たる我おもひ▲
世は何かうの花の
ゆきてかへる古巣あり▲

狂云鳥の一章は衣食住の感なり去れば人間の世に在りては寒暑の往來に苦樂ありて富貴貧賤もそれに隨ふこと也然るを我身に感ずれば衣は行先の有るに隨い食は行先の饗に任せ住は行先の留るに遊ぶ去れど此三には苦樂交りて野山の鳥にも似

ざらむや然れば假の世の苦樂を認めて憂しつらしとは如何に思はむや我は往還る古巣あればと鳥を愚妾の身に喩へて自問自答の詞より應無所住の心を示したるなりとぞ。

史傳

故俳林の二女

これは竹内玄玄の筆の跡なり玄玄は播州高野に生れいまだ弱冠のころ明を失ひしさいへり居を有無軒さいひ又號を竹窓さいひき

（一）　秋色

秋色は武江の人。はじめ照降町菓子屋大目が妻たりしときはお秋といへり。少小より風流のこゝろざしありて十三歳の春上野の花見にゆきて清水觀音堂のうしろ井の端の櫻を見

　井戸端の櫻あぶなし酒の醉

その頃の御門主雅に切におはしけるが木々につけたる詩歌俳句を日々とりあつめ甲乙を評したまひしに此句おしなべて其頃の秀逸には極りぬ。後代まで秋色櫻と名に立ちしもまた宜ならずや。晋子に入門のとき

　蜆とり早苗に並ぶ女かな

遂に業なりて專門とす

　翠簾さげて誰妻ならむ涼み舟
　ものゝふの紅葉にこりず女とは
　獨居やしがみ火鉢も夜半の伽

師叟終年放蕩にして所さだめず。おほくは秋色が家を主とす故にその沒後しばらく師の點印を借り用ゆ。晩年におよびて湖中へこれを傳與すといふ（湖中といふは同じく晋子の門弟にして老鼠また鼠肝ともいへり）。ひとゝせ何某侯の山莊に召さる。其庭園善盡し美盡して壯觀世にきこゆ。色が父さひはひと其家來に身をやつし心のまゝに見終りしが折節雨はげしく降いだし歸路は駕輿を命じて送らせらる。色父の供して辛苦せるを見て駕舁どもに用事いひつけ其間に父といりかはり其紙合羽をまとひ竹子笠をうちかぶり裾高く引あげ駕に添て歸りしを知るもの更になかりしとぞ。其孝にして放なること大率この類なり享保十年四月身まかりぬ辭世

　見し夢のさめても色のかきつばた

（二）　千代女

千代女は加州松任の人少小より支考の門に遊ぶ。考死して猶

その師を得ず。あるとき美濃の盧元坊行脚して來れる折から
その旅宿について相見し弟子となる。書は越の呉俊明に從て
上手なり。あるとき畫を上に讃を下にとのぞまれて朝顔の垂
たるところを上へ書きて其下に

朝顔や地に咲くことをあぶながり

と其即妙しんぬべし。はじめて夫に見へたるとき

澁かろかしらねど柿の初契

我子をうしなひたるとき

蜻蛉釣けふは何處まで行たやら

その情態もまた思ふべし。はじめ勢の乙由（これは中川梅我
といひ麥林舍と號して蕉門の詩人之）この女の方へ文つかは
しける端に

花さかぬ身は靜なる柳かな

この女の許よりも乙由の方へ文遣しける端に

花さかぬ身は狂ひよき柳かな

雙方同時に國を出て同じ頃雨庵に着しける。千代女その文を
見その句を考ふるに我と同案なれども狂の一字の靜なるに及
ばずに嘆伏せり其退謙なることまた斯のごとし。後に尼とな
つて素園といふ。遂に佛意を修するより外なしとなん。三界
唯一心のこゝろを

百なりも蔓一筋のこゝろより

當時俳諧さかんなりといへどもこの佳境に入るもの少なし
按ずるに晋子と野盤子とはともに蕉門の高弟なり
しかるに秋色と千代女と時を同ふして一人は晋子
の門に出で一人は野盤子の門に出でしといふも亦
奇ならずや而もともに謙讓の德すぐれたりといへ
ば世の拙き技に誇るもの二人のとうときすがたに
恥ちよといふ

雜錄

イーブを懷ふ

D. D. 譯

そゞろこの世を以て涙を片手の逆旅なりとせむか左れ
ばその悲哀と失望とをひらき初めしものはわがイーブの
迷ひなりけり世に女子をもていたく執着のおもひ深きも

のとなせるはあながち其故なきにあらざるべし。かの人間のだらくせむとするや女子まづ墮落す。いざや高潔なる信仰に三昧して人世をきよらかなるかたにみちびかむとこその世に酬ふるつとめとはいふべかりけれ

イーブは五塵のうちにうまれしものにあらず。わが上帝のすがたによりてつくられしものなりといへば世にいふ靈妙圓滿を其身に得て一點無垢なるところ世のつねの女子にことなれり。この故に渠が天資無心なるかの魔といふものゝ毒舌にかゝりて遂にのぞきがたき罪過をゝかしたるにもせよ猶その三昧のきよらかなる天眞の彷彿たる之をその他の女子にくらべて今日眼前に見るごときためしを得むとするはこれ大なるあやまりなり。さはあれど渠がアダムとゝもに飄飄として樂苑の青苔を踏み花間を逍遙したりしは幾年の夢の間か。天洞靈水の陽に遨遊してたがひに明月を弄びたりしは幾星霜の夢の間か。一旦悲風「パラダイス」を吹てたちまち千年萬年人間零落の凶夢とはなれりけり。噫人生斷腸のことといづれか之にまさる

"Outside the gate they passed
With eyes downcast,
Two souls in love and sorrow plighted,
And late in Eden's bowers united;
The gate was closed, with no returning,
For, like a flame of vengeance burning,
One held a sword —
An Angel of the Lord."

蓋し人の目に見ゆる女子形骸の美のうちにても罪惡と零落との影を引くごときものは之をまことの美といひがたし。かの魔といふものつねに諸手をあげて死洞のかなたより女子を招くに一歩たりともこれにちかづくものは既に一寸の心欲を增長せしめたるものにして一寸の心欲を增長せしめたるものはこゝに一丈の魔影を引くものなり。夫れ人は外象にあらはるるところのものをとりてことごとく之をおのれのためにせむことを圖る。是に於てかの魔なるものこの利己の情を潮として飽く迄も人の心を惑亂せむとおもひ慾情の炎に百斗の油を灑ぎてその眼を眩ぜしむれば果は魔のいふがまゝになりて利己よ利己よと東西に狂ひ廻るゝ。是時に於て善惡正邪を無差別とし善道を惡道とし正道を邪道とし耳には利己といふ音を聽き目には利己といふ色を視。鼻に口に利己と嗅ぎ利己と飲む。されば過にし年上帝のまへにひざまづきし心腸はことごとく魔界の毒袋となりてみづから肉身を噛む惡蟲の住處とは

なり畢るなり。かの魔なるものたくみに「時」を借り來りてこれをうたかたの命にぞ寄せたりけむ。わが上帝の「時」はさる果敢なきものにあらず魔の「時」は一瞬の夢の間にして上帝の「時」は無限なり。魔の色はうつろひ易き花の影にして「今」なる時の眼にぞ宿る之をかの萬世不易なる大道に比べていかにぞや

噫目の美はかならず心の美ありといふを得ず耳の美はかならず心の美なりといふを得ず。みだりにおのれの高慢を尺度として上帝の御意に悖り好で零落の谷に落ることいかばかり後の世の臍を噬む種とはなりぬらむ

はじめ上帝のイーブをもてアダムに配せしや人倫五常の道はじめてこゝにひらけ人世の端緒もまたこゝにとけたりしがイーブハ神恩の洪大なるをあをざりにしこゝに高潔なる生命をもとめむとせずして反て夫なるアダムのみを愛したりしこそ人間零落の淵源するところなりけれ。夫れなにゆへに神を愛せずして夫のみを愛するときはこゝに人間零落の影の落ちたるといふに神を愛するの淨念あらずして他を愛するのまことあるべからざればなり。よしこれありとするもこれまことの愛情にはあらず蓋しイーブは神を措て其夫を愛したりし前すでに神を措て其身を愛したりしがごとし。これイーブが神より稟けたる賦性の十全圓滿なるを知り十全圓滿なるを知りてのちみづから誇りみづから驕るの情をゝこしみづから驕るの情をゝこしてのち遂に上帝をないがしろにするの邪念を生じたるものありけり。さればイーブが十全圓滿ありし賦性は反てこれその身のためにあだとなり優ありしこゝろも鬼とかはりて是が爲にその夫を引て無限の零落に向はしめぬ。さるはアダムがイーブの愛着の羈絆にほだされつその淸婉にして妬心ふかき姿にまよひ遂に無二の上帝を措て愛の涙に天道の眼も眩みたればなるべし。もとより吾妻のいふことゝあらば盤石の心も溶けやすきこと世の夫の慾目なり左れど神とゝもに生きむよりは妻とゝもに死なむとはげにあさましの人の心や噫かれらはこれによりて人間墮落の悲劇をうつせりけり

これによりてこれを見るに人の世にありて颼颼たる「無限」の松風に心耳のけがれをあらはむとするものは先づ「我」を捨てゝ人を愛するのこゝろざしなかるべからず。イーブは人のために愛せられむと思ひ人の爲によろこばれむと願ひて遂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に永遠のあはれとゞめたりけり。噫「イデン」の忘形見よイーブの影よ爾ぞ「ホープ」の巖上に立て人間零落の一曲を彈ぜざる

痴想兵衛

春園夢裡の人戯稿

拙者は夢想兵衛の孫痴想兵衛と申す者に候扨て拙者二十五歳の秋某學校を卒業致し世に出でゝ一廉の功名手柄相立天晴芳名を竹帛に垂れんと存じ先づ一大事業を撰み着手仕候處何分にもはか〲敷成功を見ず仍て友人等に相圖り申候ひしに異口同音に「古來大事業を成せる者多くは賢夫人の内助に依りしことなれば貴殿も亦然かあるべくこそ望ましけれ」と答へ候に付き玆に始めて求婚の事を思つき是迄仕來り候事業は盡く放擲するばかり熱心致し候然るに所謂「帶には短くたすきには長し」との諺の如くふさはしき者無之ほど〲困却いたし止むを得ず非常なる「サクリフハイス」をなして娶らんとせしに一友人申す樣は「貴殿が左樣に非常なる『サクリフハイス』をなすは自分の勝手とは申せ我等貴殿の友人たる者の面目も有ればせめては我等の配耦と相比して孔雀と鳳凰位に似寄りたる者を娶るべし若も然らずして雉子又は山鳥の屬を娶らば單に我等の不面目に止まらず貴殿自身の不名譽にも相成るべし否それのみならず貴殿の大事業も雉子山鳥等の内助にては到底成功覺束なからんと思はる云々と有之候に付拙者は道理至極と首肯致し爾來一心不亂に孔雀婦人の發見に熱奔狂走致し候ひしも足下三尺の邊より不意に「キチ〲」と羽たゝきして舞出し飛立つ樣なる雉子山鳥的の婦人のみにて孔雀的は半分も見當り申さず殆んど閉口仕候折柄、筆巧者の眞似にて形容致し候へば、沈魚落雁閉花羞月、背後に傘の柄を去り紙をはぎて其骨組(御光もどき)のみ負はせ候はゞ宛然活女來と相成べしと思はるゝほどの逸物此を友人等の鳳凰的に比較致し候はゞ、彼等寧ろ孔雀的と下落するならんと思はるゝほどの優物を發見捕獲するを得て揚々得色を蒔散らし彼の大事業も最早成功を告げしが如く心得居候斯くて一年間ばかりうか〲暮し二年目の新陽を迎へ候頃より今や痴想令夫人の内助始まるならんと心待ちに待間ほどなく三年目も晩と相成候へ共些も内助始まり不申候また拙者少々くさ〲と相成四年目の元日無遠慮にも内助の催促に及び

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

候處令夫人の申し候樣は「わらはれ元龍宮乙姫殿下の宮女なるが貴郎熱心に賢婦人を娶らんことを神々に祈り給へるが故に出雲の大社より使者龍宮に來り『世に圓滿の女子はべらずさりとて痴想が祈願を無にするは神々の忍び給はさる處なれば是非に龍宮々女の中一人世に申受け痴想にめあはせたし』と請はれける、よりて乙姫殿下は妾に命して世に出で貴郎に配せしめしなり然るに妾はもと龍女のことなれば雲を得るにあらざれば何事もなす能はず而して其雲と云ふもありふれのものにては不可なりよろしく紅紫黄青白の五色の雲なるべし、是だに貴郎、妾の爲に需め給はゞ、妾が一日の內助よく貴郎の大望を成就せしむるに足りなん」とあり、仍て拙者其五色の雲を得んものと十數年間辛苦致し候ひしが中々見當らず、即ちかくと令夫人に告げ候處、其言に五色の雲もし和土に候はずは漢土崑崙の峯に求め給はるべし」とありしまゝ拙者は經營慘憺旅費等を調へ遠く漢土に航し幾辛酸をつぶさに嘗めつくして僅に崑崙山麓に達し峯を仰ぎ候處五色の雲見事に靉きて見へ候へば喜ぶこと甚しく岩角に攀ぢ樹根に頼りなどしつゝ九死一生の危難を凌ぎてやがて絶頂に達しけるに五色の雲は何處に失せ去りけん掌大も見當らず失望落膽自失してありける折もあれ暴風驟雨雷を[illegible]て起り遂に拙者は恨めしくも其處に異域の鬼と相成り冥土へ旅立ち致し候

一日不圖冥土にて故鄕の某なる拙者より後れて來りし亡者に邂逅の久振の挨拶もそこ〳〵痴想令夫人の消息如何と相尋候處彼の亡者左の通り答へ候

貴殿の出立後一年、彼女は貴殿を死亡と認め或方に婚せり

右求婚者諸君の御參考迄遙々冥土より通信仕候穴賢々々

冥土さいの河原市橫町

亡者　痴想兵衛

娑婆曆明治廿五年二月十三日

在娑婆求婚者御中

追伸當冥土目下國會議員撰擧競爭にて娑婆同樣醜陋の有樣を演居候

批評

透谷

○人肉質入裁判（磯邊氏譯）

書此は沙翁の喜劇中に傑作の評あるヴエニスの商人の中の第四第一塲文を譯出したる者なり。通讀するに原文の意義に於ては誤謬なと譯されたる事從來の飜譯とは趣を異にすれども如何にせん徃々直譯躰の語氣に流れ過ぎて原文なくては解する事能はざる如き感あり。且つ譯者が意味を失はざらん懸念の結果か餘りに字句に拘泥するの嫌ひあり。（A daniel, still Jsay）を（倚ホ予ハ言はんダニエル ナル哉）の倚ほ余は言はんなどは外に言ふ可き術あき事はあるまじ。然れども著者自らて序して曰はるゝ如く獨學者の便を圖りて講述したる者にして一讀の下に意義釋然たらん事を願ひ文辭の彫琢は顧みるに遑あらずとの事なれば讀む者も亦た逍遙子などの飜譯と品似す可からざるは勿論なり。唯だ吾人は著者が後學者の爲めに憂ふるの切情を謝せざるを得ず。

○新世帯（仰天子著）

かつてんの新小説を評するを立聞せしに仰天子の文最も解し易くして讀むに張合ありと言ふを耳に插みぬ。過ぐるころ一圓紙幣を讀みて君の文の流石にすなほなるに感じけるに今又た新世帶に對して同樣の感なき能はず。一篇眞に無造作なる結構、其精神を用ひられたるは既婚婦人の氣苦勞の發端を寫し出すにありと見受らる。蓋し結婚なる者は苦と樂とを兼ね生ずる大原因にして人生の秘奥も大方は之よりぞ嘗め初むる者、その發端を灑々とうつし出したるところ即ち此篇の價値なるべし。

○今深雪（金子春夢著）

朝顏日記の盲婦みゆきをこゝに於母影の、今深雪と題する一書文學世界の第九として春陽堂より發梓せらる。漢刀圭の爲に過ちて明を失ひたる少女の胸の中に一點愛着の發生することをうつして筆を擱せり。餘りに短篇なることと餘りに意匠なきこと、余が文學世界の爲に惜む所なり。

○俊傑少年、俊傑老年　山月子

此二書スマイルス氏の著書より譯出する所、少年、老年と別々にせしと、譯者用心の深きを見る、一讀すべきの眞書也。

隨感

獨立自治の處世

在故山　方寸子

吾人人間は、生れながらにして意志の自由を有せり。自由とは定りなき無我の謂に非ず、亂れたる放心の謂にあらず、實に我れわれを支配する獨立自治の謂なり。天は何が故に意志の自由を人間に賦與したるか。蓋し、天の吾人に斯の自由を賦與せるは、吾人が獨立自治するに堪ゆるが故也。

世の所謂る獨立自治とは、社會上の獨立自治なり。たとひ、本心の我れ死して慾情の奴隸たる人と雖ども、彼れ若し衣食住に富みて何不足なからんには、世は彼れを指目して旦那主と稱へ、社會は堂々として、彼れを獨立自治の人士とは云ふ。

世は社會上の獨立自治を知れり、而かも精神上の獨立自治を知らざるに似たり。われは斯かる世の定めを以て、獨立自治の本能とは認むる能はず。左れど、精神上にのみ重きを置きて社會上の獨立自治を輕んじ、常に『清貧』に甘んじて寧ろ衣食住の富みを賤しむる者に至つては、これ亦た眞正の獨立自治を知らざる者とこそ思ふ。獨り信ずらく、『人間として處世せんには精神上と共に社會上の獨立自治を得ざるべからず』と。世の識者、悟り顔に說て曰く。『世に處するといふは仲々に難きものなり、精神上の修業を爲さんと欲せば、必らずや先づ『清貧主義』を採らざるべからず、子等は、活世界優勝劣敗の天則を知らずとて精神的などと偏屈し、己れ衣食住の獨立自治を有せずして同胞の爲めなどと放心す、若し夫れ不幸にして父母子等を獨遺し逝かば、ア、夫れ死して猶ほ『清貧主義』に甘んずるか』と。われ屢々斯くの如き敎訓を惠まれたり、されど敢て默して答辨するを好まず、只だこれわが信念の實行せらるべき將來を俟ち望みぬ。而かして斯の俟望みと共に心私かに慨なくんばあらず。

田舍の諺は物語る。『盜賊の收益を計算するに、一日二百五十文の割りなり、彼れ一夜千兩を攫むとあれども、結局は一番割りに合はぬ職業なり』と。俗氣紛々たる此の田舍ばなしは、實に趣味限りなきの眞理を含む。只に盜賊のみ割りに合はぬ職業ならんや。苟くも不正の奸才を弄して不義の利を貪らん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とするは、これ亦た一種の盜賊にして、而かも餘り割好き職業にあらざるを知る。然り、果して然るか。乞ふ、堂々たる日本帝國の現狀を看よ。

嗚呼これ、吾黨の士よ。利己慾情の俗界に陷る勿れ、彼等は亦た一種の盜賊にあらずや。されど亦た斷じて迂儒の『清貧主義』に近く勿れ、これ一種の天命を知らざる姑息心なれば也。天の吾人に自由を賦與せるは、吾人の獨立自活し得るが故也、吾人素より靈と肉とを有せり、豈に肉に屬ける衣食住の獨立自治を要せざらんや。クリスト秘義を語る『人はパンのみにて活くるものに非ず、天より賜はる靈の糧に由る』と、實に、人の活るはパンのみには在ず、されど、パンも亦必要の糧なるを信ず、吾人ホームを形作りて世に立たん時、若し夫れ衣食住に缺くるあらば、吾人如何にしてか子女の敎育を完うせん、況んや能く同胞の爲に盡すとをや。吾人は清き生活を爲さんとを期す、されど『清』と『貧』とは必らずしも永遠の對句にあらざるを信ず。フランクリンの經驗は曰はく、『人若し一日に四時間勞働せば、如何なる場合に於ても、衣食し難きと決して無し』と。警告す、吾黨の士よ。斷じて迂儒の『清貧主義』に近づく勿れ、これ天命を知らざる姑息心なればなり也。

問答

誤解に對する心

山月子

●問。他より誤解せられて快と感ずといふ人あり、無感覺なりといふ人あり、哀しく思ふといふ人あり、何れか進歩せし人なりや、敢て問ふ。（山口縣碧流生）。

●答。快と感ずるは恐らく奇を好む人ならん、世には自らの人物を、いろ〳〵の方角よりさまん〴〵に評され、其中の誤評などを聽き、却て快然として、自己の人物大なり、俗流の知る所に非ずと思ふ人あり、中には評する人を目して小さき奴なりと心に嘲けり、傲然として自ら大なりとする人もあり、無頓着に氣にせぬ人あり、世は斯くの如きものと思ひて誤評に無感覺の人あり、我を知られずと情けなく哀しく思ふ人あり、誤解する者の心を想ふて憐れに氣の毒に思ふ人あり、其種類種々、一々枚擧すべからず、余は孰れが最も進みたる人なるかといふとを答ふるよりも、進歩せると思ふ人の誤解に對する心の樣如何を考へん、蓋し進歩せる人は、誤解の爲めに動かざるなり、而して又動くなり、動かざるところは、神に就ての確信なり「人は知らずとも父は知れり」の信念は、紛々たる誤評に對して微動もせざるべし、而して同時に動くところは、人に對するの愛情なり「我この世を何に譬へんや童子街に坐し其侶を呼びてわれら笛ふけども爾曹おどらず哀をすれども爾曹胸うたずと云に似たり、蓋ヨハネ來りて食ふこと飲ことを爲ざれば鬼に憑れたる者なりと人々言り、人の子來りて食ふことをし飲ことをすれば又食を嗜み酒を好む人税吏罪ある者の友なりといふ」高潔なる愛情は決して己れ知られず、情けなしといふが如き、自己に對しての哀苦は非るなり、然れども、他が人を誤解するが如き心の有樣を思ふて、其人の心の爲めに必ず哀み苦む、即ち其至らざる心をして一層高く、淸く、美くしく、大ならしめんとを欲す、而して之が障碍をなすものは、誤解より生ずる無形の牆壁なり、此牆壁を去らんと欲せば、他の誤りを辨解せざるべからず、而して口頭の辨解は他をして羞ぢしめ、もしくは一層誤解を增さしむ、況んや世廣く人多し、焉んぞ一々之を辨ずるを得んや、即ち誤解を其まゝに他の心に生かし、無言にして誠を行ふ、誠の行は、寧ろ誠の心は、辨解せずして辨解す、誤り乃ち消ゆべし、たゞ憂ふる所は誠なきにあり、誠は神より出づ、即ち内に向て自らの足らざるとを歎き、凡てを棄てゝ神に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

從ひ、思ふ所、言ふ所、行ふ所、皆神意に契合せんとを求め、且他の魂の爲めに誠實に神に祈る、愛の神、力ある神、必ず他を進ましめ、自らを進ましむ此確信は、愛情より出づるの哀さ苦さを消し、神の國を望んで永遠に進歩す、是れ實に進歩せる人の誤解に對する心なるべしと信す。

女報

可愛子編

●陸奥氏及び陸奥夫人の生計　先年陸奥氏が仙臺の獄に在りし時には夫人は、北堂及び令孃と共に四人暮しにて、月々二十圓の經費と定め、細き烟を立て居られしが、今や陸奥氏は大臣を辭して官邸を引拂はんとするに臨み、最初は西ヶ原なる氏の本邸へ移轉せんとは思はれたるものゝ、如何せん同所は八疊二間と四疊半と玄關臺所が附き添ひたるばかりゆゑ、今まで宏壯なる官宅に住ひたる身のなかなかに耐ゆべきにあらざればとて、增築のことを夫人に相談せられたるに、夫人は之を承知せず、先年良人が入獄中のことを思へば、今後七人暮しにて二十五圓あらば足れりと申され、容易に增築の議に贊成せられざるにぞ、氏も致方なく夫人の言に從はれ、唯自分一人は樞密顧問官の職にもあればとて、帝國ホテルの一室を借り受け、一ヶ月三百圓の宿泊料を拂はるゝことゝなりしといふ。

●婦人教育會　同會は去る十九日午後一時より鹿鳴館に於て開會し、添田壽一氏（節儉と積金）、中濱東一郎氏父母の義務（父母の最大要務の一）の演說あり、餘興に山勢の彈琴ありたる由。

●跡見女學校の汲泉會　古への野中の淸水ぬるけれどもとの心を汲む人ぞしるさ云ふ古歌の意を取りて名けたる同會は、跡見女學校創立以來の卒業生及び現在生徒間の親睦を厚くする爲めに設立したるものにて、來る廿七日同校内に於て其第五回開會を催ほすよし。

●共立女子職業學校園遊會　共立女子職業學校に於て、去明治廿二年四月十二日を以て、皇后陛下の行啓を忝うしたる紀念とし、每年行啓の當日を以て園遊會を開き大に祝意を表し來りしが、本年も來る四月十二日を以て、小石川なる大學植物園を借り受け、職員生徒打つどひて祝典を擧ぐるの準備中なるよし。

●東京府高等女學校　にては、一年生并に新設專修科生を募集するに付來る三十一日迄に築地小田原町なる同校へ志願者は申込むべき旨、夫々通知したりと。

●東京女學館　にては教頭マクレー氏等傭滿期にて歸國の筈につき、新たに英國の淑女ラスキン氏等數名を聘したる處、旣に來着し、去る二十一日より新教師授業を始めしといふ。

●開成女學館　同館は先きに教則を改め、更に豫備の一科を加へたるが尙ほ新校舍をも建築せんとて、目下準備中なれば、來月下旬には起工式を擧ぐべしといふ。

●明治女學校　にては春季試驗を、去る三十日より始め、來月五日に終り、各級共に生徒を募集するといふ、廣告欄に就て見るべし。

●カークス夫人の歸國　嘗て本紙上に論文を寄せられしとあるカークス夫人は、一時英國に歸省せらるゝに付き、去る二十二日午後四時芝公園亭に於て送別の會を開きたり。

●少女　を傷けんと誓ふて、富士見街邊を彷徨する兇徒あり、四五の女學生已に傷く。（東京新報）

●師範學校女子部廢止說　頃日教育社會にては、各府縣師範學校の女子部を廢せんとを主張するものあり、曰く我國の婦人は教育者となるの遺傳なく、又た四十乃至五十の生徒を統御するの能力に乏しきのみならず、卒業して教員となる頃は人の妻となり、續きて子を擧ぐれば、自然家事に忙はしくなり、充分の義務を盡す能はざるもの多し、されば我國にして米國の如く男子の手に不足を生じ、若くは獨國の如く寡婦の多きに苦しむ如き國情に立至らざる以上は、此等の事業に多額の費用を投ずるは甚だ不利益なりと云々。（東京日々新聞）

●生血　を以て病父に奉ずる賤女あり無知憐むべしと雖も其孝烈已に以て鬼神を泣かしむ。（東京新報）

●末世澆季　女一人右法禮として獻上仕候也と娼妓を購ふて佛寺に入る、何等の醜事、況や之を受くるもの佛門弟子なるをや、是實に、法界の罪人のみを以て目す可らざる也。（東京日々新聞）

●京都遊廓聯合會　京都遊廓にては、彼の遊廓移轉又は賦金附加税等の議起るに當り、一時に騷ぎ出し多人數馳け廻りては却て纒まり附かざれば、此際一の私會を設け、此等の事務を委ねんとて、去る十三日宮川町女紅塲に於て各遊廓の有志者を會し、種々協議をなしたる末終に聯合會と云ふを設くることに決し、直ちに議長副議長の撰擧をなしたりと。（中外電報）

●遊廓新設の願　大坂北區堀川以東の實業者數十名は、頃日遊廓新設の事を出願せんと頻に計畫し、其出願に就き書面に調印したる者は、北區天神橋筋一丁目、同二丁目、市の町、天神筋町、河内町一丁目、二丁目、松ヶ枝町、大工町、此花町一丁目、二丁目の居住人、及び天滿青物市場の問屋、仲買等凡七百餘名に及びたれば、兩三日中には總代を以て大阪府へ出願する都合なりと、其理由とする處を聞けば、近年東天滿は追々衰微し、此儘にて過ぎ行かば終に荒野とならんも知るべからず、今にして回復の策を運すこと必要なりと云ふに在りて、又其塲所は何れとも指定せず、府廳の差圖に從はん考なりと、大阪朝日新聞に見ゆ、久留米といひ、大阪といひ、此慨すべき擧を企つる者は、嗚呼是れ何等の現象ぞ、吾黨の義人、一層奮て堂々の攻擊をなさゞるべからず。

●病院の設立、婦人の義擧　横濱婦人慈善會に於て貧民救濟の目的にて病院を設

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

立せんとて、昨年以來横濱根岸に建築中なりしが、此度愈々竣功したるを以て、去る十九日其の開院式を執行したり、院名を横濱根岸病院と名け、十全病院長醫學士廣瀬佐太郎氏に假院長を囑托したりと。

●松本婦人矯風會の美擧　仝會は本月二十六七八の三日間、神道分局に於て慈善のため吳服小間物雜類を賣捌き、其上り高を岐阜愛知兩縣下の震災地へ義捐せらるゝと云ふ、右につき仝會員は去る十四日夜小柳町キリスト教會堂に會し、準備委員を撰定し、種々打合せをなしたる由。

●製系工女と肝油　製系の工女は、十三年以上十七年位迄の妙齢にあらざれば系に光澤薄く、廿歳以上となれば繰系は多量なるも品質劣なりとて、世話役又は線結ひ等の外は、賃銀却て少女に劣る位なり、是は指頭の堅硬脂肪の加減によるものなるが、茲に瑞士國に於て時計製造の職工が、指頭の柔軟を得ん爲め不斷肝油を飲用するとありと云ふ說を聞き、信州諏訪邊にては、試みに昨年秋蠶製系の際一二の工女に、服用せしめしに、五週間を經て其効驗著しく系の光澤顯はれたりとて、此事俄に四方に傳播し、本年の製系期も早や數月の後なるを以て、肝油を服用し指頭柔軟療法を初めたる者あるよし。

●大坂に淫猥の弊を絕て　と題して、三月十九日の大坂自由新聞は痛論する所ありたり、論旨は、德義の教育と警察權を以て汚風卑俗を一洗せざるべからずといふにあり、殊に警察の取締に就ては慨歎し、注意を促したり。

●播州明石教會婦人會　は每月一回開會すといふ。

●岡山婦人矯風會　は現時會員八十名あり。

●岡山博愛學校　は生徒二十七名あり、此校は婦人矯風會の事業にして、其目的は學資なき子弟を教育するにあり。

●西野文太郎の實妹　何の思ふ所ありてか故西野文太郎の妹某(十八)は、此程郷里山口を出立して上京の途に就きし由、着京の上は多分三浦中將の許に到るならんとの噂さなるが、同人は學識あり品行方正にして和歌を善くすとか。(改進新聞)。

●婦人談話會　北海道勇拂郡覺生村婦人談話會は去る五日開會し、昨年來積立の積金元利一百八十五圓六十二錢三厘を配分し、終て會長水嶋さき女(積金の配當)、仝ちか女(家計の簿記)、最上つれ女(平常の心得)、小島とき女(蓄財は此身)、瀧谷みえ女(孫の土產)、相澤かれ女(朝起の富貴)、仝つた女(女子の教育)、川上いよ女(常盤女の話)、西村しげ女(せめてかながきも)、山口まさ女(春の仕末方)、川北いそ女(石の上にも三年)等談話ありたる由。

●御布施を以て細見を買ふ　北海道每日新聞を見るに、或る僧が、御布施の包を解きて、其中より十錢を出して娼妓の細見誌を買ひたるとを載す、嗚呼何ぞ其腐敗せるや、吾人は深く之を悲む。

●エリサベス女皇の肖像　マドラゾ氏は、五万フランチ以てエリサベス女皇の肖像を西班牙の某紳士に賣却せり。

●世界婦人技藝奬勵會　米國シカゴに於ける世界博覽會に際し、婦人技藝奬勵會を設立するの企あり、其趣意といふものは讀賣新聞に委しく記せり。

●貧女と結婚　墺國維府一倶樂部あり、會員たる者は必ず貧女と結婚せんことを誓ふと。

●至誠通天　獨國の一女子齡僅に十歲、其父法に觸れて獄にあるを憂ひ、書を上りて帝に哀訴す、帝物色三日實を得たり、即ち特赦の命を下す。(東京日々新聞)。

●福島縣通信　◎西白河郡に於ける縣會議員撰擧概況　當郡は二名を改撰するを以て、民黨にては委員會を開き私撰をなせしが、其委員會は隱謀ありしとの故を以て二派に分れ、大に競爭するとゝなれり、然るに一方の候補者たる石井勝彌氏は、基督信徒たり、廢娼論者たり、且つ禁酒論者たるを以て、當郡の寺僧、貸座敷營業人、酒屋等、擧げて他派を助け、狂氣の如く周施奔走し、特に誹謗的人身攻擊をなし、遂に石井勝彌氏を墜すに至りし、人は云ふ若し石井氏にして三つのとなかりせば、全標を得たるや疑なしと、以て當郡人心の向ふ所を知るべし、噫哀哉。

●宮城縣仙臺通信　◎去る二月中、本縣下名取郡に於て、小學校教員の撿定試驗を行ひしが、裁縫科に及第せし女子は、京道みき子、遠藤こう子、富田さん子、菊田よう子、錦織まつ子、齋藤すゑ子、今田いつ子、片平あさ子、飯淵やす子の九氏なり。

◎女生　師範學校を卒業せんとする生徒三十七名の中、女生は八名あり。

◎結婚と離婚　仙臺市二月中の調査によるに結婚八十、離婚二十三ありといふ。

●熊本通信　◎熊本女學校教則改正　同校は今度更に學科課程を改正して、豫科、本科、高等科となし、從來五年の學年なりしを、一年を加へ、通じて六年となせり、又別に新たに邦語科を設け、正則の科程を踏む能はざるものゝ爲に、凡て邦語を以て普通科を授け、其他凡て女子に必要なる科目を加へ、殊に裁縫科を多くし、四年を以て卒ふるとゝなせり。

◎熊本幼稚園　は曾て月謝の多かりし爲め、入園の兒童多く紳士の家内より來るものにして、僅かに二十有餘人なりしも、更に月謝を減額して之れを數等に分ち、一般の兒女をして容易に入園するとを得せしめしが故に、爾來入園の生徒增加し來りて目下六十余人なりと云。

●婦人撰擧權に付ての運動　ロードアイランド婦人投票權授與請願組合よりは同州代議院へ向けプロビデンス府カルダー氏の手を經て同權認可の議を建議せり又大統領婦人撰擧權附與の爲パレーフチールスソサイテーよりはリンコルンのパツトナム氏同府婦人有志者よりはポータツケツトのダーリング氏より請願書を呈出せりと云ふ。

●万國婦人禁酒會　雜誌一月二十一日のユニチンシグナルは万國白紐同盟會なる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一欄を特に設けレデーサモルセツト女史の趣考に作れる万國婦人基督教禁酒會を表示せる記章を示し記載をなしぬ、該記事は故ジユリアアメス孃の死去後引續き六ケ月間休刊せるもの再興にして新たにウエスト、ウイラード及レデーサモルセツトの三女史特に任を帶びて記者となりレデーサモルセツトは主に名ある男女の小傳蒐集に盡力せらるゝと云ふ。而して女史本國に歸朝の後は自から其主任となり特にウオイルダホワイトリボンと題せる新誌を發刊せんとの望ありと云ふ。ユニオシシグナルの記者は其博愛なる事は宗教上に於ては宗派政治上に於ては黨派の差別等更になく而して自由の民としては又男女の別さへ立てずとの敎旨を以て此擧を祝せりと云ふ。

●印度結婚法同盟會　過る日印度マドラスにて開かれたる同會はデワンバハダーラグーナスロー氏を會長に推して左の件々を議決せり即來る復活祭の間引續き同會々議を開き海外に對する方法、結婚、年齡、婦人の再婚、社會改良會に僧侶をも聯合せしむる事、傳道者を用ゆると、及女兒賣買等の諸件を評議せんとの事なりき。同時に當日會席の會員互に結婚年齡に付議して或は女兒十二歳に達するにあらざれば結婚せしめず或は十歳後或は十五歳後と云區々の辯論ありき、會衆の人々は主も勢力ある市人なりきと云ふ、

●エリス孃學問上の優待、ウインブルドン高等學校に學ばれたる同孃は今般チクスフチルド及ケムブリツチ聯合學務會の試驗を經て博物學の優待生に擧げられ且又同時にニユーンハム及ギルトン大學生の特有なるハークチス地質學研究にも同樣の許可を得られたり。

●近頃の新劇曲、當今の音樂者中名聲高き彼のルイスヒリツプイザベルフアセツト、デリド孃等及ベンデビス、ヘイデンコフイン氏等の主唱により過る頃催されたる音樂會に會せし會員及賓客の餘響として演ぜられたる新音の一曲は「ピーストウープスツーウインと題し趣考はカニンハムブリツヂマン氏の手に成りウイルツドフレベドンタル氏の附譜なりと云ふ。其大意はとある小娘の一僞從僕に懸想せる起れる緣話を老貸人及支配人の妨止せんとするにありていと單一なる仕組にはあれども其演技對話及奏樂の秀妙なる特にメシマムーア、ロジナフランドラム孃等コルチースパウンド、ウチルターブラウンロー氏等の巧絶なる說明は殆んど聽衆をして實境に顚せしの感あらしめたり爲にさしもに廣き劇塲も當日は風雅なる淑女紳士にて立錐の地も餘さゞりし程なりきと云ふ。

品名	三月廿四日
白米（一円二付）	
一等米	一〇〇（斗升合）
二等米	一〇一
三等米	一〇三
四等米	一〇六
五等米	一一二
正米（一円二付）	
越中米	一四三（斗升合）
尾張米	一二七
南部米	一五〇
行方米	一四〇
土浦米	一四〇
雜穀（一円二付）	
本貫大麥	二九五（斗升合）
上州小麥	一七二
竹林麥	一八五
梅澤大豆	一九五
青柳大豆	一九五
吟小豆	一六二
白胡麻	一一八
黒胡麻	一四五
鹽（一円二付）	
赤穂	三、二五
大鹽	三、三五
本齋	五、四五
新齋	五、八五
醤油（一円二付）最上物・極上物・上物・中物・並物	持分厘 七四、七九、八七、一、一〇〇、一、三〇〇、一、六〇〇、一、八〇〇、二、〇〇〇、二、一〇〇、二、七〇〇
味噌（一円二付）	
地製上白	六、八〇〇（貫）
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	四、三〇〇

品名	三月廿四日
絹糸（一貫二付）	
本練花色	二七〇（匁）
同色物	二五〇
羽二重糸	二四〇
延糸太物	三三〇
芥子糸	二九五
同薄色	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績糸	四五〇（円）
木綿冬縞（一反二付）	
伊勢改良縞	七〇（錢）
同糸入縞	九〇
笠井糸入縞	八五
佐織茶縞	五六
同納戸織	五五
同紺織	六〇
同青縞	九二
生機茶縞	三五
瓦斯二子	一、一〇
同羽二重縞	一、八〇
物産縞	七五
糸入愛國縞	九八
精撰結城	七〇
別製結城	八八
野田二子	六〇
本塲青縞	一、三五
白木綿（一円二付）	
玉鶴	三四五（反）
綾鶴	三七五
日の出鶴	四〇五
若柳	三一五
稲岡	三七五
遂莱	四〇五
改	三五五
間銘	三七五

品名	三月廿四日
製茶（一貫目二付）	
山城江州稲大頭	二、五五（円）
同稲頭	二、一〇
同大頭	一、七七
同中頭	一、五五
同中茶	一、二〇
狹山稲大頭	二、〇〇
同稲頭	一、七五
同大頭	一、五〇
同中頭	一、四〇
同中茶	一、一〇
鰹節（十貫目二付）	
土佐上	二五、〇〇（円）
薩摩大	一八、〇〇
城の腰小	二一、〇〇
房總大	一五、五〇
銚子大	一七、五〇
水戸大	一四、五〇
炭（一円二付）	
伊豆上	四、五〇（表）
同中	五、五〇
同並	六、〇〇
丸備上	二、一〇
角備上	二、七〇
水油（一樽二付）	
地水	六、五〇（円）
胡麻	一〇、四〇
荏油	九、九〇
桐油	六、〇〇
岑	七、五〇
坂水	七、五三
石油（一箱二付）	
チヤスター	一、四九（円）
デボース	一、六七
ホーキ	一、五六
ロシヤ	一、六六

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

皇后陛下
明宮殿下 御覽濟の書

巖本善治妻譯

再版

（リツトル。ロード。フホントルロイ）

小公子

小供のよみ本

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遥する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネイ、と申たとか。考へて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御坐り升。邪道に陷らふとする父の足をとゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の德を思ひ起させるは、神聖なる天職を擔ふ可愛の幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故此珍重すべきまろうどを尚一層優待したいと切に願ふ者です」と。斯る主意にて譯成る。原著は近頃英米に轟き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髪の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且尚ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十頁密畵十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。

一册正價三十八錢。郵税八錢也

發兌元 女學雜誌社

（賣捌店）○東京。瑞穗屋、丸善、小林、東海堂、武藏屋、東京堂、巖々堂、須原屋、金港堂、大藏屋、中西屋、布美乃屋、重陽堂、誠之堂、○横濱。丸善○京都。東枝律、大黑屋○大坂。福音舍、岡島、梅原、○神戶。福音社、○熊本。草野、○函館。福音舍、

正札引なし

新形 流行

○はをり紐 品々
○帶留類 品々
○時計紐 品々
○メリヤス 品々

右ノ外組糸一切御好ニ應ヲ精製仕
○御進物等ハ美麗ニ調進仕候

組糸老舗

日本橋區よし町

佐竹勝兵衛

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

廿二號目録

女學生
軍士及び兵書……
人物修養……星野愼

所感
卒業近くの感……(明治女學校)天野こさば
玉瑕を惜む辭……(女子神學校)森田千子
梅は學びの友……(高田女學校)大森きみ子
和歌四首……(高田女學校)大森きみ子　赤井さら子

論説
英雄……(女子學院)秋野すゞき
如何なるを眞の響さいふや……(女子神學校)松本錦子
教育……(立教女學校)松崎德子

漫筆
梅窻雜感(十五)……山月子
歸京の日……可愛子

寄書
陰晴……無名氏
木村鐙子の傳を讀む……中和堂主人

學びの栞
唐詩選講義……

右は去る廿二日發兌せり

廣ク天下ニ向テ同意ノ士ヲ歡迎ス

仁義煙滅、道德地ヲ沸フ、誰カ今日ノ社會ヲ以テ眞ノ文明也ト云フ、……見ヨ、滔々タル紳士豪商ニシテ、詐僞ヲ行フ者アリ、學者智者ニシテ、尙ホ賄賂ノ醜聞アリ、其他政事家宗敎者ニシテ、敗德汚穢ノ擧動アル者、枚擧ニ遑マアラザルナリ、……吾人社會ノ改良ヲ以テ、自ラ任ズル者、噫、豈、浩歎セザランド欲スルモ、夫レ得ベケンヤ……我輩茲ニ感アリ、同志相謀リ本會ヲ設ケ各自ノ美德ヲ涵養シ、率テ社會一般ノ德義ヲ增進セシメント欲ス、冀クハ世ノ正義ニ勇ムノ士、自ラ進ンデ進德ノ友トナリ社會ノ汚風ヲ一掃シ、我國ノ精神ヲ振興セラレンコヲ、

入會志望者ハ入會金拾五錢會費三錢ヲ添ヘテ申込アレバ徽章及天德表ヲ交附ス尙詳細ノ規則ヲ要セラルヽ諸兄姉ハ郵券二錢ヲ送附セバ進呈ス

明治廿五年三月

東京芝區三田四國町二番地第十一號

大日本進德會

●●特約大販賣店廣告●●

東京市日本橋區本町三丁目

瑞穗屋　清水卯三郎

今般同店と特約致し弊社出版書籍及雜誌大販賣候間本社同様御用向被仰付度候也

東京麹町區下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

改良 牛痘苗販賣廣告

當部の痘苗は今般獨逸より歸朝の小兒科醫學士吉松駒造幷に皮膚病科獨國醫學士加藤時二郎兩氏の監督により獨逸最新の種接即ち單に犢牛に限り平面切種を以て精製し牛躰は毎回獸醫學法其病健を檢し採漿の後は剖觀して若し異狀を認むるときは其痘苗を廢棄し加ふるに防腐的稀釋法を用ふる等尋常の痘苗よりも感受力の經過長き純良の痘苗なれは續々御注文あらんことを希望す

改良 牛痘苗定價

一 牛痘苗　大毛管壹具一本入（七八用）　金貳拾五錢

一 同外國用　大毛管壹具四本入　金壹圓貳拾五錢

但右兩種共百具以上は割引

東京市日本橋區呉服町三十二番地 牧畜雜誌社内

牛痘種繼部

牧畜雜誌

○ 牧畜、獸醫、養禽事業に關する學士、實驗家の論説、内外の新説及ひ通信等を掲載せる有益の雜誌なり

定價 壹冊現金七錢　六冊（三ヶ月分）前金四十錢　拾貳冊（半ヶ年分）前金七拾五錢　貳拾四冊（一ヶ年分）前金壹圓四拾錢

外に郵税壹冊に付金五錢つゝ

為換は江戸橋郵便本局へ宛振込の事●郵劵代用は五厘切手にて壹割増●通運便にての御送金は別に配達料金三錢を添へらるべし

發行所　東京市日本橋區呉服町三十二番地　**牧畜雜誌社**

經濟學之原理 全一册

米國哲學博士ラルチッド氏述　日本同志社教授浮田和民氏譯

紙數五百五拾ページ餘　定價金五拾錢郵税金八錢

右再版出來せり 購讀を賜へ

發兌　東京京橋區彌左衛門町　**經濟雜誌社**

賣捌　東京○國民新聞社、警醒社、丸善、小林、博聞社、○大坂○梅原、岡島、丸善、嵩山堂○京都大黒屋○横濱○丸善○名古屋○川瀬○其他書肆

鈴木弘恭大人講述　附錄小倉てびき

第四版 百人一首講義

正價金廿八錢　郵税四錢

御高評を得たる百人一首新年に至り注文いよ／＼多く第三版品切に成りたれば茲に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ／＼の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得る至極重寶の案内書なり。

發兌元　東京麹町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

轉居

東京市牛込區神樂町貳丁目拾壹番地　**飯野吉三郎**

同所に轉居　**東京廢娼會事務所**

第四回豫納出版廣告

文科大學教授 物集高見先生著

ことばのはやし

全一冊凡千八百頁豫約正價金二圓九十錢見本は郵税二錢●豫約期限四月三十日豫約金一圓御送附殘金は五月十五日より送金の順序を以て製本を遞送す

右は古代よりの國語を集めたる字書にして註釋詳明例文許多なれば國文研究に至便なり曾て第三回勸業博覽會に於て公衆の評に由り時事新報社より金牌を得たる美麗の珍書なるとは余が蝶々を待たず今已に一本を殘さず因て又第四回豫約を募り五百部を限り印刷に附し有志諸君の請求に應ぜんとす請ふ期限を誤る勿れ幸甚

●女學雜誌社出版書籍

右今般本社ト特約ノ上販賣仕候間續々御注文ヲ乞フ

東京市日本橋區本町三丁目

瑞穗屋清水卯三郎謹白

女學生徒募集

常學期試驗來月初旬に終り、各級に入學生を募集す、有志の者は四月中に申込まるべし、當校設置の各科左の如し（但し規則書は郵券二錢を贈らるれば速かに贈呈すべし）

高等科（高等の教育を望む者の爲めに二ケ年卒業の仕組にて設く） 師範科（女教師志願者の爲めに設く） 普通科（高等小學卒業者は無試驗にて初年級に編入す） 豫科（高等小學の程度に應ず） 幼年科（高等小學以下の程度に應じ專ら女子幼稚者の爲めに設く） 專修科（英學、漢學、和學、繪畫、音樂、女禮、裁縫、速記等專修志願者の爲に設く）

麴町區下六番町六番地

明治女學校

女子生徒募集

春期試驗結了各級入學を許す教頭マクレー氏等傭滿期にて歸國の筈に付新に英國の淑女ランキン氏等數名を聘したる處既に來着に付本月廿一日より新教師授業入學望の者は至急申込あれ

大に教則を修正して益完美を盡せり

虎の門内

東京女學館

●●松蔭女學校女生募集

本校家族主義ヲ以テ實用貞靜ノ婦女ヲ養成スルヿヲ期ス望月興三郎氏敎育ノ主任ニ當リ望月くに子塾舍ヲ監督ス來四月八日本科壹年豫科壹貳年級ヘ入學ヲ許ス同五日迄ニ御申込アレ但定員ニ充ツレハ謝絶スベシ尋常小學校卒業者ハ入學試驗ヲ要セス規則書ハ郵券貳錢ニテ呈ス

神戸山本通壹丁目拾番

松蔭女學校

私立梅花女學校生徒募集

（大阪市土佐堀裏町）

本科豫科各級共試驗の上入學を許す○候補生尋常小學卒業生は無試驗入學を許す○別科裁縫を主とし其他實用の學科を授け二年にて卒業○附屬小學校尋常各年級入學を許す○四月八日迄に入學申込あれ校則は郵券二錢を要す

發行所

東京市麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

…予約出版廣告

文科大學教授 物集高見先生著

ことばのはやし

全一冊凡千八百頁豫約正價金二圓九十錢見本は郵税二錢●豫約期限四月三十日豫約金一圓御送附殘金は五月十五日より送金の順序を以て製本を遞送す

右は古代よりの國語を集めたる字書にして註釋詳明例文許多なれば國文研究に至便なり曾て第三回勸業博覽會に於て公衆の評に由り時事新報社より金牌を得たる美麗の珍書なるとは余が蝶々を待たず今已に一本を殘さず因て又第四回豫約を募り五百部を限り印刷に附し有志諸君の請求に應ぜんとす請ふ期限を誤る勿れ幸甚

●女學雜誌社出版書籍

右今般本社ト特約ノ上販賣仕候間續々御注文ヲ乞フ

東京市日本橋區本町三丁目
瑞穂屋 清水卯三郎 謹白

女學生徒募集

當學期試驗來月初旬に終り、各級に入學生を募集す、有志の者は四月中に申込まるべし、當校設置の各科左の如し(但し規則書は郵劵二錢を贈らるれば速かに贈呈すべし)

高等科(高等の教育を望む者の爲めに二ヶ年卒業の仕組にて設く) 師範科(女教師志願者の爲めに設く) 普通科(高等小學卒業者は無試驗にて初年級に編入す) 豫科(高等小學の程度に應ず) 幼年科(高等小學以下の程度に應じ專ら女子の幼稚者の爲めに設く) 專修科(英學、漢學、和學、繪畫、音樂、女禮、裁縫、速記等專修志願者の爲に設く)

麴町區下六番町六番地
明治女學校

女子生徒募集

…級入學を許す教頭マクレー氏等傭滿期にて歸國の筈に付新に英國の淑女ランキン氏等數名を聘したる處既に來着に付本月廿一日より新教師授業入學望の者は至急申込あれ

大に教則を修正して益完美を盡せり

虎の門内
東京女學館

●●松蔭女學校女生募集

本校家族主義ヲ以テ實用貞靜ノ婦女ヲ養成スルヿヲ期ス望月興三郎氏教育ノ主任ニ當リ望月くに子塾舍ヲ監督ス來四月八日本科壹年豫科壹貳年級ヘ入學ヲ許ス同五日迄ニ御申込アレ但定員ニ充ツレハ謝絶スベシ尋常小學校卒業者ハ入學試驗ヲ要セス規則書ハ郵劵貳錢ニテ呈ス

神戸山本通壹丁目拾番
松蔭女學校

私立 梅花女學校 生徒募集 (大阪市土佐堀裏町)

本科豫科 各級共試驗の上入學を許す○候補生 尋常小學卒業生は無試驗入學を許す○別科 裁縫を主とし其他實用の學科を授け二年にて卒業○附屬小學校 尋常各年級入學を許す○四月八日迄に入學申込あれ校則は郵劵二錢を要す

發行所 東京市麴町區下六番町六番地
女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三